

市長室から（3月16日記）

「克雪」に思う

今年は、思いのほか三笠は雪が多く、近隣のまちの情報では雪が少なかったというところが多いのに、この周辺では、三笠に集中的に降ったようです。

今年の実績では、例年との比較で、1～2割程度多い降雪量でしたが、岩見沢市との比較では、三笠地区で約1.4倍、幾春別地区で約1.8倍という結果でした。（3月9日比較）

テレビやラジオでは、岩見沢市の情報が報道されがちですが、これはアメダスが設置されている市町村を中心に天気情報が出されるため、三笠の情報がほとんど出ない状況にあり、一部の天気予報やデータ放送では取り扱われても、ほとんど岩見沢市と同様のものが掲出されます。

しかし、前段申し上げましたとおり、雪の量は岩見沢市とは雲泥の差があり、的確に情報発信していただけるよう、関係機関に要請しておりますが、なかなか理解をいただくことができていません。

そもそも、情報によりますと、アメダスは岩見沢市内には2カ所、夕張市内には3カ所設置されているとのことであり、三笠市の実態からも、気候的には特異な状況にあり、安全・安心の面から何らかの方法を検討いただくべきであると考えています。

時間が掛かる取り組みとは思いますが、関係機関に理解いただけるよう、引き続き努力して参りますので、市民の皆さんのご理解をよろしくお願いいたします。

さて、この雪深い三笠で、冬の生活が少しでも楽になる工夫がないものかと考え「冬快適プラン策定委員会」を1月28日に立ち上げ、北海道大学や室蘭工業大学の先生に入っただき、議論いただくこととしました。

三笠には、炭鉱の坑内水が地下に溜まり、その一部が湧出しており、また、現在幾春別地区で室蘭工業大学が研究している石炭の地下ガス化もエネルギーとして活用することが期待できます。

さらには、山に木々が豊富にあり、これもまた、エネルギー資源と捉えることができます。

これらがどこまで活用できるのか、そのためにどんな投資が必要なのか、効率的に使うためにはどんな工夫が必要か、融雪溝・流雪溝・融雪槽などの設置を考える場合、可能性はあるのか、費用はどの程度掛かり、国や北海道の制度は利用できるのか、また、街の施設を雪に強くするにはどんな工夫があるのか、等々の検討をいただくこととしています。

雪との戦いを克服する「克雪」の考え方は、従来もそうでありましたが、これからの三笠にとっても大事な視点と考えています。

猛吹雪の中で雪投げしているとき、ここで暮らすのは辛いことだなあと、しかし、その吹雪が終わり、少し日が差してくると、やっぱりこんな良いところはないなあと、そんな時私はいつも思うのです。先人が築いてきた、この三笠をしっかりと守って行こうと。

（広報みかさ平成28年4月号に掲載したものです。）